

和刻集

加之部

六下

和書門				
類	號	函	架	冊
三六七二三	一	二	三	六四

內閣文庫		
和書	號	冊
三六七二三	二	三

內閣文庫		
番號	和 36723	
冊數	64 (7)	
函號	263	7



と正直とふ臥準と之ゆえ丸かかろが たり○奇に河ふよめふろあり
或ハがと濁りくろり萬葉集よ欲得字冀字願字かど成ありふ是也がとと
ふ河れ猫を成一長くとかかとわひけふふれ類ハ二意とわめ者
べ一金葉集ふ

秋さらぐ妻とふ鹿と圃一が折くら色れおハまじうことハ圃て一が
あし願ふ意也とそり○猫成かかるとふびか一れ金澤れ文庫小韓猫り
からり書と取よせたる小船中氣乃防ぎ小猫と載りうりうりそのもれ
猫とつひ初めたる也と物ふえきたり○出羽ハ魚の成とをかかるとり○假
字とふハかりれ名の義也文字れ字ととあふり日本紀ふえきたり

かふふ 稱字遂字諧字同字適字叶字副字協字ふど成あり兼言れ
義ふふべ一称あふふ也奇小むにかふふ小かふふかとよめハ適又副か
ふべ一に語れ道ふかふハ同願のかかハ遂也○折名小加納とてハ御厨
かとれ如く公役小捲くの名也東鑑小姜濃國推加納ハ舟加納とてたり伊勢
れ村名小神細とよめり○賀名生の行宮ハ吉野より

かふぎ 倭名抄小鉾又鉞とよめり金本れ我也本邦れ刑具本小鉞鍔と施せ

せこれと後ハ堅木のて成用なり一説よきハろり及少く輪の如くふろりくより
ふとと日本紀の所小かかきつけあがらふとはとてたり万葉集のふりど一也

○文選吉刻小筵字とよめり以筵撞鐘とらふハ大小の相鉢ハさかと註よ
小本枝也とて中中臣被小天津金本とて是也中言れ物小橋板のふ本

ととてたり今と奥州ハハ河存せりとと○俗語ハ七らふはさかふ本
小目とつとあどそり伊勢の南山濃州山家の樵夫ハ柴炭かまぎとつとつり

○神代の古波よ近江國栗名郡ハ上をふは栗樹ろり其根ざれ教里
小及了一郡の人今小堀く晨昏の薪小用り是と名けく金本とつととて

ハかハ石炭と指くそり○新よさく事とさげるとりも同一かこ毎あ
かかハ 倭名抄小金とよめり金冠の衣也又丸かかるとそり新撰字鏡よ鏡

とよめり又鏡とゆがかとよめり○鼎とらがかとそり説文よ鼎ハ三足而耳
とてゆ拾遺集物名ふとて日本紀ハかかとよめり○かかハ志摩國伊雜

宮の由緒ろり近江ハ正興石徒也 一雙ろり朝野僉載ハ辰州れ

鼎足るれ類也

かかめ 扇梢と扇眼とを不雙眼と似たる也又老御行宗家集の中とふ
 れめとらり源平盛衰記よかのらと之をこれと改眼と心得るはらるる○延
 暦儀式帳小蟹眼釘つる今不むや釘かふ了○相馬百官の要と加かめ
 とよむと病ありむり○樹小不ハ扇梢よはふ本也とす芽出ー紅葉あ
 かからど 必とよむ紀小要とらり假からこれ我也とす一説小蟹からび
 れ我疑かき意也とす○必矣と今ハ音やとよむと日本紀小からとよ
 びとらり其後とらり又不の時小からびととよむあわりの詩の縁か
 子とらり也不の詩也要とよむ要當とほらり○必也とらるハ也ハ助也か
 からびとからび管子小必則とす○果決とらむと史記の注よ果猶決也
 とす○六朝以果の史小多く必字と用ふ此五會字と用うとす
 總要也と注せり

かかーむ 悲哀とふ神代紀小流涕とらり金肅乃我かふ一秋金肅殺
 れ意らり萬葉集よと飽深とらりまむむとあくとららると萬葉

小又可奈之備ととありとらりたふかかふととと適せり千載集よ

ととくふうかーかりり昔あを秋の心はうきととひりれ○萬葉集小
 とのりれ意ふかーととあとの多し今某れ序ふ我かかーは保女よか
 なまうを係妻よすかかはかぶら好ととあとのかハ淮南子注よ哀愁愛也と
 と字書に哀ハ憐也と注せよ意也とす○ハ可怜とあらるととけりる
 ととよめつるかかーととハれりらき意らるかや一定家々の説よとらり

かかだふみ 古事記小鍛人神代紀小作金者とらり新撰六帖よ

かろはまこまととらるふあひの鍔かあらるかかだらふれ

かかつたわ 倭名錄よ楛楯と割せり日本紀よ金網井とす○金網ハ鍔索と
 ふ今俗を稱つるどとふ是也○神鳳披上朝明即金網御厨とす○延喜式よ
 金網驛とふ是也藻塩草よハ哥撫村とらり今れ繩生村也とす

△かか 我と万葉集小かかととあり又かかニツれてよはとと疑の詩よありか
 侍り頭昭の説小むりよと不待也とらるハかか○蟹ハ皮丹の我かふ一萬葉集よ
 かかるととららるたよらひ其整へけ 正新とのらるとと腹中ハ黄八月と

〜と盈虧を○新撰字鏡と蝨と海の ちこれと蝨ハとさみ也倭名蝨ハ六甲
つめとちりり○近江御代に御製よ

みかぐれうよ目のほき横小ゆ葦間れかおのあこれ世の中横行をいひ
く築歩れ名けり今人の劔の飾少を以物伐高し又教の蟹らつまうく蛇とき
了食ふと之本尊よ能與虎鬪虎不如也と之をと信を〜○蟹ハ甲ハ世に
完と堀とつハ思不出其位の意也

かふとろ 貴人の産長よつ蟹取の我也勸取とちハらつび石語拾遺よ菅不容
尊れ生きたまふ時よ海をさきハ蟹と拵し除くふ成り其我よふれふ也
○小兒初生の時小瘡の如ふと加ふとつハ出生後初くも胎尿と加ふとつハ
みか因我かふ〜

かよかくふ 日本紀よ東西とよみ萬葉集ふ云云とよかり又加ふと加ふと
と之伊彼よ此よ也とよかくとつハ同〜

かふハさくら 倭名彼よ樺と加ふとと加ふととよかり萬葉集ふ櫻皮と加ふと割を
香庭櫻の我少く加ふは略せ少や原氏よつらざうら同〜右や集物ふ

かむけとと浪のおうふととらとと風吹とふ浮沈むと○大櫻紙園林よ多
實は塩を多ととらとと近江世の勸也ととらとつハ奇より知たふ成〜

かふとろとさ 細草也蔓草れ如〜其紫相對とハ是と生兒の後倭小用のふハ
蟹採の我也又絨縮と豫知子と産産帯ととらとつハ又産長と贈ふと是
と添くたふかと古法とつハとつハ槐記よ治承二年御着帯後典藥頭和
氣定成朝臣持參仙沼子二七粒自臺盤所方缺之中將局取之縫付御帶尤方
と之たり仙沼子ハ豫知子れ一名かふり本草ふ之たり志のふは月ハ謬也

△かぬ 兼とあり加保ととつ保子とぬ也又色とあり人月と加ぬふかとと
と是あり

かぬら 日本紀よ鍛とよかり金打の我保うぬ也新撰字鏡よハ鑄字とよかり
二合字成〜○世人独眼人とくぬらとつハ鍛工の祖神よ天目一箇命の名らふ
と力く也とそつとがんととつハ眼一の音也ととそつ江府少くハか
とつ神田の明神より起ふとそつ○歐邏巴の内よ目國つら近江以智妻
と攻ふとつ也先年蝦夷のきつらつとつハ 叙百里漂流〜一嶋ふはとたり

ハシメ男女皆一服也と云きなりなり

△加糸 日本紀云哉と加糸と云り今も加糸也古今集れんも之を加糸と云り
 せよと顯昭の中ハ加糸と云り神樂譜ハ人をも之と云りとも云と○金と
 ハ八堅練れ我か多一一金ハ五金れ徳名也口語小字と云りされと東國中
 とつらふとのハ黄金也京師中とつらふハ銀也○曲尺と云りも金れ我也
 一ハ加糸と云り銅鉄と云り造り朝野群載ハ鐵尺と云り○足利之郎
 宗治川の先陣の時ハ金小波と云りまらと云りとも云り加糸の我か
 去一文字と云り今もまらと云り○鐘と云りハ高音の我也と云り
 あり鐘の我とハ奇よあぬありと新續古今集世世ハ奇也と云り俗
 化リ加糸と不時の鐘と云り軍鐘と云り梵鐘と云り○鐘と朝つと云り新と云り
 中島の時ハ起りて我邦中と云り徳天皇れ伐ふて鎌倉將軍れ時中と云
 たり○千載集よ

高破の尾上れ加糸の音と云り曉けくあむなくらん是ハ山海經ハ豊山ハ鐘霜
 降而自鳴と云り東方朔傳小未央宮前殿鐘無故而自鳴三日と云り

鐘の御崎ハ筑前也海底ハ清沈と云りと云り長さ二丈八寸餘と云り宗像之宮

司左衛門興氏文明中小ハ鐘と云りんと云はる同音異なりかりんハ止よきと云

○鳥の加糸ハ印也○齒黒の加糸ハ鑄鉄水也平家物語より黒也と云りつけ

り○伊勢地所ハ加糸榮花物語小きと云り加糸かどと云ハ豫の我か多一

しつらゆゆ東宮小云たあきと坊加糸と云りたりと加せが糸ハ尚齒會

記よ之中○江加海津の宿ハ金と云り遊女ありエカかふる著聞集小云

加糸云 兼と云り金ハ中ハ兼と云りハ金よりなる也也と云り新撰字

鏡小該と加糸たりと云り○成り糸を行く糸か出る糸か入る糸かぶと云ハ

難んを云意をかハかくと云小通なり萬葉集小云りといハ糸と云相争不

勝と云不得と云糸と云り不堪の意なり○待り糸ハ括津國玉坂ハ南也

加糸云 兼と云り我か多一と云り方代り糸かふと是也又豫字萬葉集小

之中奇にありは我多一と云り加糸かふと云是也字書小豫ハ早也先也と

之中つらがめと云通を

加糸こと 豫言か多一ハ加糸と云り 兼と云り之葉紙ハ也豫事の我也

の意ふあふなり彼省と初めたることふむとす○河又川とよしハ意ハ
 此義逝水の昼夜小とありハ瀨瀨の移る多ふとふ也人の堅開きたるハ
 渠也又水字とよみし日本紀萬葉集本之たり○乃、祢川吉野川筑後川
 と云之河とい俗小坂東を郡四國次神筑紫之布とす○をぬたよあ中
 く川の今とくむれハ揚成ハにせふと云之たふあり水行川と云ハ河
 八移のふあり流成よ前中く川と云ハ泊瀬川と云ハにありあ中く川と
 云ハ泊瀬川ふあふ也とす○家居小かしてふ東鑑小東類西類と云之た
 了東坡集注小類宇内地常語宮室之房曰類猶人之類類也とすされを
 かかれ結俗かむし東づ西づふどふか如し今人側字を用くかたとあり
 桶板と桶のかつてハ舟れ枋ととかいと称しとす小音頭かかると同義
 成し○皮とよびも身れ外類ふまハ同義なるし倭名抄小甲とありあハか
 ふれ音結也皮れ訓い義かふや○歟の皮は幾張と云國史小之申西出れふ
 かハのふと皮張とす○木の粗皮と鬼皮とす○河の江の城ハ伊豫上り
 かむ倭名抄小樺と訓し今櫻皮有之とす玉篇上樺木皮名と云之たり

今檜物師のはふ櫻皮とむとす是也萬葉集少と櫻皮とがふと訓しか小
 今他もふ弁とあり新樺六帖少とわらわの笛ふまてふ加むら又近江
 かふいとりの里れかむらとあり職人打合少と
 ああひいとむむとむれさくらかむらをわらとをれりふざりが○今かハ
 ざらとふハ死のかを柔色かふ樺也黄櫻と云ふ或ハ大樺乃一名とい樹ハ似
 くと死ハ似つゝ賞と人れあふらふはれハ流成小けりさかむ樺の咲みれた
 ふと云むむらむと云ふとのハ別種少や
 後みとるやをれあハはれめとととありむく白かかきさくらふ徹書記の説
 小かむららハ重樺也或ハ重のうと紅うく艶かむららととす○古今集雅
 抄よ緋の色むらく種芳小裏薄色かふをかむらととすとす樹皮れ色小れ
 ふむや又とむのふ小むらとふあさそけ抄ふとたり○常にかむと称するハ
 西去よ不醬色也○今檜物師かとのきく反用を櫻皮ハ白かむれ本とす是也死
 單れ白色也夫本集小
 みとのふら白かむ樺ちりかり春れかむ種小打花と云挑花葉葉ら

くハ別戸とつやうつとたりふハ誤也云ハ姓氏の流傳ハ一西云と云ハ一ハ
氏の別つりしと姓と氏と誤混せり漢高祖と姓劉氏と云ハ是也

ハヤ 厨又園又園と云ハ厨舎の取と云ハ川屋の取也右事記小為大徳之講流下
と云ハ互ハ屋と川止小道と云ハ糞穢と流せり云ハ萬葉集ハ川隔と云ハ説文
少と高岸夾水曰則と云ハつり信不不やと云ハかやの勢と云ハ也紀の高野山ハ則
ハ異聞惣録小ハ照虚耗の凡俗少く則鬼と行を云ハ此為云由難壁言經小
云ハつり今れ得利ハ鳥雷^{ヒメノカミ}懸摩と園小紀ハ甚誤也云ハ也紫姑神と祀之則
神と云ハ朱子始類小論と云ハ

ハハカ 倭名抄ハ水岩と云ハ川棠ハ我多云ハ一祝詞式少と云ハ云ハ芥子の
名とす右今条ハハカと云ハ是と云ハ云ハ一殿と云ハ興藻と云ハ或ハ大と防也
カハフ 日本紀小蝦蟇と云ハつり萬葉集小河津と云ハ居地と云ハ多岐得也
易井卦に鄭と云ハつと云ハつり豊後詞小と云ハ云ハつり○カハフの軍れり後
日本紀小の世寛喜保延の云ハ百練抄古今著聞云ハ一豊前規矩即小ハ年毎云

つりと扶桑佐談小ハ中遠初の天龍ハ毎年ハ彼岸中日小ハつり慶長十九年ハ阪
冬陣少と律國曹公の色小ハつり漢武元鼎五年小ハつりハ事文類聚小の世
たりと云ハつり云ハつり一緋紳ハ狂舟小

とのぬ乃ハ云ハつり云ハつり云ハつり云ハつり云ハつり○鳴工時つり云ハ
夜行撃柝代更籌曰蝦蟇更と事物紀原小云ハつり○カハフハ隱岐海部郡
の葛田ハ後多羽院の御製云ハつり江ノ小名河傳通院上初新田之光院ハ羽國彦
依永泉寺高野山靈山院伊勢を云ハつり他と云ハつり西云ハ云ハつり或ハ天師ハ符
と他ハ投一或ハ云ハつり乃有伐喻云ハつり鳴伐止つり云ハつり○右放小

苗代ハカハつり云ハつり鳴田ハ水と云ハつり云ハつり云ハつり云ハつり○色と云ハ
云ハつり云ハつり云ハつり云ハつり云ハつり云ハつり云ハつり云ハつり○色と云ハ
時ハ喉脹起と云ハつり云ハつり云ハつり云ハつり云ハつり云ハつり云ハつり云ハつり○百練鈔
ハ賀茂上社及海傍立地蝦蟇與蛇闘取設蛇と云ハつり○新千載集小
苗代ハ云ハつり云ハつり云ハつり云ハつり云ハつり云ハつり云ハつり云ハつり
住近乳堂蛙呼子日と云ハつり同日れ談也○河津莊ハ伊豆國也姓ハ云ハつり

かこあみ 日本紀不游休とよみ靈異記不操浴とよみ拾遺集の河辺ふたの川に
らみたるをとのり

かむだら 俗ふく水練にたき首依る川はれ松山とてふ不同一〇諺不
川ならハ川くもをふとふハ淮南子不善游者溺善騎者墮とて之たり

かまがり 神代紀不川雁とてゆ疏不鳧雁之属とてり葦田鶴とてふ如く
唯鴈とふふ一〇川猶ハ後世に河かほ一〇川渙らりハ可なり

かハゆー 徒然草不之ゆとてりむ意不之り或説不可愛の鴉訛せふ也とい
一〇内府通親記あとかハゆくをふとて之たり

かハやーろ 顯昭説不神樂譜不葦神樂とてふゆり川の上下小神とてく棚とてき
くもふ也奥我抄不之竹と棚小くはくこれ神供を奉ふとてり新古今集
に葦神樂のころとよみとてりけふ貫之

川社志の不たりとてりを衣ふふせは七日ひきえ七日ハ神樂の日敷かふ一〇
やうそ川瀬よりる社ハかたより川社とてり多くハ後之神とてり社かくて
七假不神とてりく神樂とてをふ也とてり江都督け所陸徒入道重義説

かこ不直ハ葦越の神樂とよみ俊成卿に川波のたきく落きう鼓は首のやうに
岡中ふとて不神樂不るくも也と説ふと後不えなくたふ一〇諸社百首よ

五月亥廿波さそふ本松川かてやうとハ是ををりりき
かことみかから 顯昭説不わとてかから也らくもハらとて不河やくかこよ
とてり不同一後撰小かかてつくとあふと同意也とてり昔不河よきくあや

△かひ 日本紀不牙字とてり芽小同一甲の音猶とてり日本紀の鹿鹿火とて
事記不荒甲よ伝とてり字書とて甲ハ草木初生の芽子也とてたり又いと溜り
くとてり右事記不阿斯詞備とてゆ領字とてり我同一〇かひらをかひらき

の何七芽よりかたふ一〇註の字れ意也とてり或ハ益とてり新千載集不
海系や浪不たりふ葦牙れかひら子園とてりかこ一〇俗の河波ふ小

弱ふふとかひらとてりては移とてり一〇卵とかひらとてり日本紀不之たり牙
とてり通る若き系よ鳥のひらとてり海名抄とてり卵子也かひらとてりハ

卵割の表也葦の苗不かひらとてりてり同表也〇殼とてり海名抄不之ゆ卵
不同一虫の皮甲也とてり〇倭小穀とてり参遠とてりかひらとてりふら

妻川集 卷之六 下

助於殼の殺也○新撰字鏡に蝮とあり字を得る一靈異記小節をかしきよ
 めると同一○貝とよむと蝮不同一貝ハカと一物の名をふとい知れり甲介乃
 類とよむ貝とす○源氏小かひつとゆふも之申貝物也と之と倭姫世記
 貝満物と云はるを正義ふるハ肉はるをさうくふぬ一○智度論に如
 吹貝用氣甚少其音甚大と之をハ法螺と指す也○放客の吟情を遊み
 弄罷小備少もの多く海畔小糸とる空殼子也それ中ホウツセ見みさ
 貝こそれ貝かき一貝ふとハはく糸セウ妹夫貝袖貝背貝見ふとハ意趣とわく
 名より死貝極貝梅貝貝千種貝撫子貝増徳貝ふとハ形色の似たるを
 名とをさす也○貝ハ海物なり貝ハ小なりとあり種々貝殼ハ満た
 ると下野那須のつくりよるをさう伊勢の濱山よあり○匙とありハ飯匙の類
 也貝の形に似たる也我邦や七七筋とて小用うと之申枕草紙小一かし乃
 ころまをくさうたふとす今節會に墨盤小必を七筋と具ふ或はく之禮
 金銅の七筋と用う漢家の儀に准ふふをハ新撰字鏡に鉢とありはる
 少や又鼈と藥のかしとあり○柄とよむと蝮不同一柄と蝮とからとあり

○校と日本紀小かひとあり糸袋とてれ蝮とふや今ハひとのさう○心の
 かしハ倭名被小峽とあり間れ我日本紀に各字をよむと同一熊谷榛谷
 かとい訓と用う○國の甲斐と峽の義也○甲斐川ハ伊勢備前より甲斐庄を
 楠氏橘姓也とす○大養猪飼かとハ今かかと不是也日本紀に其字とあり其
 餌の殺也かしのかりかへるハ鷄川小不詳也○かしとつふかとハ貝殼造る
 少く音とつふや今昔物語小顔とれさうく貝殻つうくはるかと今
 かひ 徽とす倭名被ハ倍と加ぶと割せり食上生白也と之梵語の迦毘羅
 也とす○源氏よまふと小虫のをみふをさうかひなるとかひとく
 たり○萬葉集小山田りをさのまかひのトこれのことありハ蚊はとあり蚊
 遣はとふ也かひたつかかひのけりふとふと同一
 かひこ 倭名被小卵とあり又蠶とて養兒の殺ふと一又蠶ハ卵生をれ
 卵子れ我やや小かふこととあり萬葉集小養蠶と之申右事記に奴理能養
 之所養虫一度為高虫一度為殼一度為斐有斐之色之奇虫と之を蚕と指り
 姓氏録小百濟國人勞理使生と之神代よりかひの術ハつとと韓國に

つらつら一或一〇言利と不八種蚕也原蠶ハみつて也蠶紙ハ終つみ也〇蚕
 と養不流のつれく損を多しなり但馬養父即ノ神社なり猶々小名氏請ひ
 事り棚小らげ玉八流和米とそり〇金蚕のまゝ五色線々やて石中蟻蟻也とそり
 かびや 萬葉集小鹿史屋ウリ小鳴かそりとそり香火屋ととそり鹿史屋とそり
 義とそり一山里の鹿と追ふとそり假屋と造りく多と防さ具さ物とゆくとそり
 不今ちひいれ屋と造りく其内小燈ととそり一和とそり紀の熊野れきとそり六
 今とかひとふとそり〇台澤氏説小信濃國ハかへと称を多との農家に
 各りり片や称あく菓ぶき也薩富蕪菁かとそり蓄一ありとそり鹿史屋れ特
 訛ふとそり一とそり〇枕何小朝霞とあふ意ハかそりつひかけたそり也とそり
 かひふ 神代紀小肩とそり靈異記小臂とそり今かひふとそり不八脚也〇周
 防の内侍かひふくたんとそり多ふ八脚とそりたり小式部とそり江ハれ放道綱乃
 母れへう小え一れれ詠仔勢を稱うとそり九とそり清虫納言とそりれとそり稱とそり
 不皆女やく時小のぞんこれ秀逸百人一首の標よ入く奇く歎く感小たれ
 かひたこ 延喜式小貝鱗鱗りり日本紀小貝鱗皇女とそり不とそり不据まそり

かひろく 倭名彼ノ船とそり船不安也と注せりかひろくのみ成也〇枕草紙
 小傳のゆ成ふふかひろれはくそりふとそりふとそり似とそりれとそり同とそり我や
 △かふ 易とそりりかふとそりかふとそりふとそりふとそりふとそりふとそりふとそり
 に易とかひとそりり〇買とそりむと換ふの義也西法のみやと買と易とそり
 せり東濫小傳とそりふと意同一〇靈異記小債とそりかひとそり物のみや
 也〇盤とかふとそり不八支字也一〇畜養とそりふとかひマ一ふ也靈異記に
 鱗とそりみ常に飼とそりり〇手背とそりりつひ足踏とそりふとそり不八甲のみ
 りや説文ノ義と手足甲とそり不八爪甲とそり

かぶ 日本紀小頭とそりり古事記の舟にかぶつくまひとそりり頭衝直旧也〇株
 とそり不南方草木不心小ミりかぶ成新株とそり科とそりり又採字を用うとそり
 蘭よそり倍小かふたとそり不八株之れ義也國小よりかぶらとそりり神代紀不本
 株とそりりかふとそり中臣被ふとそりり是也〇竹のさりかぶ鬼苗

セツふると九ツふるとらう其色の妻上るりと八葉く好ぶべし○死ふとハ
加ぶの死と一様ふるなりとらう八葉加ぶと子とのも別種あるゆえと味
とのと同じ株青一

かーうと 日本紀小報故又和唱とらう故の妻也萬葉集小と和故とん
らう及故とんらふ八程奇少く長故の意と約めく其我と又復丁寧とるの
意也又唐書の類小故と取直くらふと平記小故と翻案ととせり

かへんせと 日本紀小不肯とぞとらうゆふうけつぬ及也蓋裏按よ肯とか
えととらう可也と注をくくるととらふあかの横音と通へらふ許ふる
肯の唐音うえんとらうと訛く和訓とせらふんとらふ八却く謬也

かうらふと 還饗の我のうらよ近衛之將管領少くゆけりて後員方らう食
と修ふ也とらう還立の餐ととらう年中行事故合小

かうらありと 原氏小之布養とらう報案の我也年中行事故合月次系
其のそれ年れとらう小月ことのかうらありとこれ伸のみとらう○復奏江

かうらありととらう玉乗集とらう

かへひまりと 原氏小之復奏の我也さひ及一也○同く小如さうととら
ハ可復也とらう

△かや 日本紀小顔面又容貌とらう形秀の我かふと一垂仁紀小色とらう
説文小顔氣也と注せふ意也○俗小顔小似ぬとふハ之面熟心かどとらう

○神代紀小垢とらう又選小垢俗とらふ如く菅家萬葉集小みとら
かや古今集小やとらう月えぬとらふかやとらう西行がかららうかやとらう

とらふと西法の小何くの貌とらふ意也
かかむせ 顔とらう音便少くかかむせとらう遊仙窟倭名録小面子とら
かかむせハ意とらふとらう

かま 鎌とらうまがの意小や古史記小鎌とらうと我訓とらう豊後辞小かとら
近江湖水の魚小味と形鎌小似とらう鮎の品也○釜とらふ今之朝辭語と同一倭

名後小かかと訓とらう○一統志小覽衆亭在天台縣宋淳熙中日本沙門采西
建内有釜極深廣とらう○新撰字鏡小甌とらう又鍔とらう釜と訓とら

かまがこ 浦の死をふ浦鮮の救也本草少と花抱梗端如武士捧杵故俚俗謂之
浦越と云たり○魚糕と云ハ形色の浦鮮小似ま也近世の製少く西の古
少と云之を又双紙小かまがこなりと云り今多くくと成用う本式魚肉と鎗
く竹串小貫さるる物也と云り

かまがせ 奥州信濃越後の地方おつぢ凡の如くたつとく人と損傷をく録
風と名くそのり嚴寒の時小なりく陰毒の風也西云小鬼彈の類也と云
かまびそー 謹謀誼略と云りかまびそひどが死意をさー○四國の俗八國究
の意小なり

△かみ 神ハ眼見の夜神明照臨なりはむをうりなり又蘇見の夜鏡出まると前
小日月の夜天鏡尊と云奉たり史記の注小鬼之靈者曰神と云之なり○天
皇と神と云奉るるハ宣命古事記と多く之く日本紀少と明神御宇と云
一古事記雄略天皇の奇少と自ら作と云み萬葉集小皇者神亦之坐者
とと云り○雷と雄略紀小かみと云り日本紀萬葉集の奇多くなり今
かみありと云り○雷火少く家かこやけを以新ハと投入するらハ埤雅に

龍火以之逐之即息と云ふおかけ也これと熾燒を云は至つてハ雷龍火の
かちかー謬く人と湯ハ藥と投せり替神録小之なり○雷書のゆと西云乃
諸書小之なり○上とよむと神と云同ハ或ハ信之の上略と云り○髪も上
小在の毛也徒然草小女ハ髪のゆくとたかえとあり吉野拾遺小奥福寺宝藏
の光明皇后の髪長一丈のありはやかみかみ色翡翠と云さびくとつハ吉野天の
川の弁天小義經の妾静る髪り長八丈と云たり又ら家家の婢夜中小閨
小へく梳き後こと小髪中より火燭をうくと落る後小富家の妻とありこ子
孫さうえぬ代醉編小王嘉甫々衣と云けハ常に火星ありハ頭と梳きハ髪鬘
の中より晶瑩流落を是貴微小非ハ壽徵也と云たちと同一と醍醐隨筆小
之り寶曆の初め信濃の必某々妻髪と梳き小玉のむらくと落るり如きゆりり
ハ吉澤氏の手間小なり○四等の長官と云くかこと林をさも其官のち小立る
也○僧の辯小師と林くかことつひり古今著聞集小之なり○土人の妻
とかこと呼と云同ハ戦國の謀後箇條小たかとの料とく婦成妻を小との料
と云はると云りき今田舎おらさばと呼とおかとの略也一妻濃ハはかみと云り

○紙ハ寛見の紙多し一ハ朝少く紙と違ふ始ハ推古紀云之たり色紙檀紙穀紙屋紙河苔紙斐薄紙等の名ありし傳名汝云之たり麻紙朝野群載云之紙邦の紙と異朝小紙せしりまろ之たり唐玄宗の時小多く書と集め日本云の紙小ありし松室雜録云之云○紙ハ幾張と云る唐式云之たり舶來の紙藤紙ハ漢名也馬糞紙ハ草紙也○紙裏の字西云の云小と云之云○西洋紙ハ和紙と云るもの故布より故紙ハ搗く紙と云極く堅靱と云○紙と云るは天工開物小殺書と云る○かむと云ハさよ御までかみといハ安き也

かみろき 日本紀云神祖と云る出雲國造神賀詞不加夫呂伎熊野大神仁明紀不加夫呂伎安彦名と云るとも同義也や神賀詞の奥小高天の神王高御魂命と云る神王とも同く割をス一王ハ玉父王母の稱も也出よ乃人○かむろきかみろきと云ハスハ陽神陰神の稱もさきさきかみの如くと云

かひをせ 神風也神武紀の序に初く之たり伊勢の松廻也風土記の説ハ公得く一神風の風俗と云ふかみ一神代のむかひより天照大神のまゆまきさかとは其風氣の絶く他はより異なれハ云一説云神風の息と云けはかと伊の諸

つひかけなす也諸尊の氣は風神と云さきさき神代紀云之萬葉集云と神風ハ伊吹イヒフキと云る云と亂吹の義也と云○神風の濱ハ伊勢篠嶋也神風ハ崔液詩云尺舌かみさひ かんさひと云と神閑神宿と云んと云ハ助けの如く萬葉集ハ神左備と云と神備と云と云ひハう也うり及びうりかみさかことと云神くことと云也萬葉集云ハ多くうりなす云と云

かみさび 神奈備と云るとと神嘗の義云く神と云る一所と云改一或神のともとの義と云らみさきみび常に通るとと云る云く神さひと名けさる所多し神賀詞云と大御和の神さび鴨の神さびウツクサの神さひさことと云○神さびの御室ハ大和神さびの森ハ按津神さひハ丹波又ハ城の山崎也神さびの森らりさんと云はひのりりとしてけりハ後世の事也

かみろよ 今の姓云小神三郡と云る云多氣渡會飯野の三郡と神郡と云神郡ハ持統紀云之少神宮雜例集小皇は神御鎮坐之時磯部河以東神國定奉飯野多氣渡相評也と云三郡りと一郡ありしと云同本紀云之たり又道後三郡と云之たり後小代と貞辨云重安濃朝明飯高郡の御寄附あり

神八郡と云うは伊勢人の姓か多し。○二百年來の五戈小神地と多く他は押領せられ渡會郡之半ハ他領とあり刺(豊)之間の時小換地の催し之らうかと思の若く止ぬるは陽復記行義ふことなり。○延喜式小伊勢國飯野度會多氣安房國安房紀伊國名草下慈國香取常陸國鹿嶋出雲國意宇筑前國宗形等郡為神郡と云ふなり。

かみれき 之諸礼小男女ともハ三歳の霜月十五日と良辰と云ふなり。かみれ 髪垂の糸兒の初生六日小生髪と刺と云う又語とりく祝せき也寶積經小志遠去子自持刀下髪と云ふなり。○兒生とく七日と怪く刺胎毛髪と云ふの風俗も同一諸ふふなり。かみそき 源氏よる中鬘を此の式に如く源氏の奇小

とわらふさきひらのをこれみささのむひゆく赤城秋のそとへ髪と云ふ調度小海松と云ふかきなり。かみえと 義満將軍の時内野合戦正月元日小忍子殿中賀會の常素襖の袖と裾と成らうと云ふ徒らう起きうと云う礼の重さ小長上下と用ふと是也

と云今按明德記小ひひの之びと云や合戦ハ二月晦日の也或説小細川頼之も始ふると云う其上下と不詳ハ古事應神記小上下衣服と云ふハ袍と裳とと云う祝詞式と御衣波上下備奉と云ふなり今俗の所ハ袴衣上下と云うなり云なる衣一永昌記小小舎人童浮線綾袴濃衣と云一山槐記小小舎人童袴上下前本衣蘇芳草と云せむ也和抱衣小さうとくかみえと云ひはらと云ふ十訓抄小小糸あきれのかみえと云ふなりと云之若聞集小はらのひと云上下にわがささなるなりと云之東鑑小直密上下と云御殿舎人武康若赤色上下と云之なり室町家の時ハ童坊の若せ一徹田家の前うり武士の姿かくぬりうと云う後世社社或ハ袴の字と造り出せり貴賤と云小麻上下と云と云ふハ古代と存せるあり。○鎧ひはれの類小又上下なり。

かみかから 日本紀ハ惟神又隨在天神と云ふ聖武紀小隨神と云ふなり御製乃奇小かみくらと云ふと同一多く天皇小奉進と又直小神と云ふ奉ふれ例一代一度大神玉の宣命と云ふ。○万葉集ハ神長柄と云ふなり。かみくら 詩小神保是饗傳小楚辞所謂靈保亦以巫降神之稱と云ふなり。

又醋とくふかびとよりり○腹のかびを虫のうむと子と嘘とをならけを相ある
へー○酒とかびハ釀とよみ新撰字鏡ふけかびとよりり孫より新撰字語也と
より宣賢の説ハ左ハ吹咀とく酒と遠とより之隅風去記ヨリ酒とよみ酒と
よ也武備志ハ琉球のよみ婦人酒とよみと證とよみ○酒とかびとよ
と嘘と如くを子意也

かん 神字とよみ子ハ多くかんとよむ例也神代紀の神号より一神武紀もと
小かんかぜとよみせ後より○酒とかんを子とよみ温むとよみかを子よ同
或ハ間字と用をハ白氏文集小林間煖酒燒紅葉とよみ小掃也○物とかん
より時よみハ勘字也勘辨勘定かところ○算とかんのたつとよみハ文字也短
折れかところ○馬小かんつとよみとよみ驛字也○色小かんとよみハ甲の結音也○食
小かんとよみハ羹字也云かんハ羊かん温かん蟹かん也又猪羹鮮羹驢羹羊羹
海虎羹寸金羹月窟羹等より又さかんとよみとよみ之なり

かんか 假字也源氏小かんかのみん今の世ハとよみさかかありふたかところなり
○鐙の俗体とよみ

かんべ 神戸八日本紀小く之戸令ふり神社小組統と奉る農民とより○伊勢河
曲郡安濃郡小神戸より尾張中嶋郡小本神戸新神戸より童謡小伊勢の神戸ハ
新神戸尾張の神戸ハ本神戸とよみ神明の云社よりく真鏡の云鏡七ツ存在を
参河遠江也と本神戸新神戸より神鳳披ふ之伊賀國伊賀郡也と神戸
よりく御遷坐の跡小神戸神明宮より朝野群載御躰御りの條也と出たり又志
神戸預安濃神戸預河曲神戸預とよみ

かんかめ 神嘗の教九月の祭也太平記小かんかめあり武藏都祭とよみハ神衣より
義訓せよ後一令義解小神衣祭日即便祭之とよみ

かんかぎ 倭名抄小巫と訓せり神神の我也神慮とよみむる意也韻會小巫祝也
其能事元形以舞降神也とよみ職人令中と女と圖せり又かんかぎとよみ
新撰字鏡小魅とかんかぎと訓せよハ子かー○又みことと神を其林の中小神
と降一ハあせとよ一流より倭名抄小巫現遊女とよみ盗類不入庭訓往本小
と縣神子傾城とよみ西出中と巫娼の稱より今と信州諏訪のよりあく
巫女と稱とよみハ神子より別子神家と離たり縣神子より娼を兼たり録

之臣集小の里みと破石集小のらりれみと世國朝詩評小村巫と之たり○
 又凡御巫御門巫生嶋巫各一人又座摩巫あり○祝詞巫をかんことらむ神子の教し
 かんさる 神代紀小神退又神避又化去又終字とあり神去の教也人ハ神とりく生
 るゆも小さなり又かんハ前又いへることありて去のゆとあり
 かんさる 日本紀倭名被小綺とあり紙機カヒの教多し似錦而傳者也と注せり○
 江州の地名とあり綺宮景行紀カヒあり
 かんさる 倭名被小麴と訓せり瘡發カヒの教あり今かぢとふハハ詞の略也しめ
 かんさる 黄茶也又白かぢなり瘡ハ俗ハ花のつくとふハあり
 俗ハ竹黄とそつ教ハ倭俗の製字也蝦夷嶋の俗ハ今もかんたらとふハ北海隨
 筆ハ之る○いハ伊勢三麴とふハ教ハ高坂村河曲郡玉垣村飯野郡中万村とあり
 かんさる 日本紀ハ霹靂とあり靈異記ハかんさるハ萬葉集倭名被ハかん
 とけともそたり神解の教也とハ解裂の意神代紀小裂雷と不是也延喜式
 小霹靂神奈あり三座坐山城國愛宕郡神樂岡西北とあり○新撰字鏡小霹と
 雷のあり本とそり○かんさるハ雷カミあり

かんさる 熊野新宮近き処小なり高倉下命と多るとそり續古今集小
 三熊野の神々との名たみのありとそりこれ行ふか石たみハ神武紀より
 小天磐者あり
 かんやどり 弘安禮節小神宿とあり申上頭上と謂と注せり今世ハ八幡座也と
 たり又四天の星とありサハるハ麻呂皇子四天王像と造り頂の髪小置くと敵小
 勝たまひハ小記とそり
 かんさる 神代紀小頭神明之憑談とよみ天武紀小着神とありかたりとよみ古事
 記小為神懸小作小神のかりたまふ也後世託宣と不是也神誌とそりたふハ我
 かる一頭ハ言事記小之物主神顯於御夢曰とらる意あり一仲哀紀の歸神と
 訓まなり
 かんさる かんだらめとそり中上等部の教多く上達部とあり官ハ宰相位ハ三位
 以上とそり又月卿と稱也唐詩小月卿臨幕府とそりなり○神館とそり新
 拾遺集小上西門院とそりときとそり之後ハける時待賢門院かんだらめとそり也
 たまひそりける小とそりなり

かんみかど 古事記小神朝廷とあり萬葉集小大神宮一齋王の奉仕をさ
二宮にえらむるなり 内宮といふ名ハ是より出づるなり

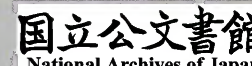
かんのねんぞ 物小甘の御衣と云ふ太上天皇のめをせらるる小直衣と云ふなり
かんむりむこ 倭名抄小冠箱と云ふ之後小似なるなりなり字ハ儀禮士冠礼の注
小なるなり

△かめ 亀と不神と云通る日本紀小亀郡と云ふと倭名抄小神名郡と云
せり神代ハ鹿ト云く後世ハ亀トと云ふなり倭名抄云七神亀と云ふ甲と神
屋と云ふなり○嘉祥元年小豊後云ふり白亀と献せり○亀尿と云く石支
字と云く滅せぬことハ草本子小之なり○公羽國男鹿嶋の濱云く大亀と
網一殺さんとせりと云老翁行かり亀と賞く海小放つ其夜夢小之と云中右
村と云所の磯小浪云く銭と打上破小埋りなり拾ひ求むると次の巻と云
かく若たり老翁行かり拾ふ數百貫不及了皆元豊通宝也と云毛實云々虚
談小云々ハ○慶長十九年駿河の前濱小異魚と網一得たり其形亀の如く
背甲黒色腹下赤班云々首ハ大の如く尾小云岐なり云々西腋小之踏り云々餘

かろく 擔ふと云○延寶五年久保彦の領所小西頭の亀出たり云々四方云々云々
さ也と云○新橋字鏡小鼈と云かかろ鼈と云かめ鼈と云かめと云云鼈と云らと
よふ倭名抄小鼈と云みかろ鼈と云かめ鼈と云かめ鼈と云かめと云云なり
攝亀ハ呷蛇亀云く蛇と制を云かめハ神亀也ハ蟬亀瑤瑁と云見の産り云みかめ
ハ緑毛亀也と云義持將軍の時河内より献せり又阿州の海小方二丈云々及大亀
云々緑毛也と云○甕と云ハ亀云く酒とのむとの故也と云又酒と釀と云の器
かろと云く名々云々倭名抄小ハ瓶と云云なり今音と云云是也新橋字鏡小
瓶と水がめと云なり○十訓抄藤原山蔭亀云枝けて報を得り云々載なり

かめ 日本紀小瘦と云やさかみと云なり云々及む也
かめの 亀居と云り親長卿記小云足と尻の左右一團云々亀足の如く云々若
也○亀井の水ハ天王寺より上東門院

かめやま 蓬萊山と云ふかめ云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々
子小之なり新六帖小



雲ふかどりの紅なり神魂の字と填たり大社勘文ふゆ

かもん 掃部とあり倭名抄ふかまとうとをかんりともを蟹守の義かふり古語拾遺ふゆなり○地ふゆふゆとをを代かふりともをい意也と具原氏より○家門の称ハ橋家ハ公界ふたけく称を清華已下の大臣ハ其家ふたけく移毛

かてふふ絲 萬葉集小澳鳥鴨云船とふゆなり文選小乘見舟為水戲注ふ舟如見形也とふゆなり

△かや 日本紀小哉とありかかと同一又かまを疑の詞ふゆハ疑字とありり同書小草又芽とありりふゆの草とかやとふゆ後小一種の名ともハ通別の実也俗小きの実かやの實かとふゆと草本代あふたか何也倭名抄貞觀儀式と小萱とありり玉篇小萱草也とふゆなり詳からむ本草ハ秋花省為萱といふかや也高かやとかや絲ふゆかや系ふとありり○蚊子嚙ふハ蚊屋也日本紀ふたり儀式帳小蚊屋帷とふゆ○古事記小算草二字とありり今も家茂ふく草ハ何あふととかやとふゆとくかや屋の絲なり○櫃とふゆかの下考ふゆ

白かやハ穀の色白し伊賀より出づまきかやハ蜜からびく糸とリくはさう然後より牧客のかやハ其皮穀小はさう其濃の産也和州攝州わくくさうがやと稱もつぬかやハ披子也○蝦夷小航のふとかやとふゆ○百鍊抄ハ北殿為萱御所とふゆ也

かや 續日本紀小草舎とふゆなり茅舎也茅舎とかやハの記ハふとありり草庵集もハ人のかやハ行場の高かけとかやふく石のわめふとふゆ仁徳紀ハ茅屋壞ハ以葺とふゆなり○人丸の舟にかりふまこのかやハ小まともあふハ鴨也とふゆ

かやをく 原氏小ゆかハとふゆ何也埃囊抄小欽明紀の隨心と訓せり印本小ハやをらかふとありり古志かや

△かゆ 倭名抄小體とかゆ粥とふゆかゆ暑瀉粥とふゆかゆとありり藥ハうもかゆ也炊湯の煮かゆ一鶏目飯慕眼粥とふゆ新撰樂記小ふゆ堅粥とふゆ江次第小ふゆ是今時の飯也糝粥とふゆのかゆ也又芋粥宇治拾遺小ふゆ之く大將ゆゆはと是ゆりまきとけ小ふゆなり○正月の粥ハ禁裡小ふゆかゆゆり世風記小正月十五日煮小豆粥為天狗祭庭中案上則其粥凝時向東方再拜長跪服之終年無疫氣とふゆ伊勢二所ハ神宮小奉てふゆと儀式帳小ふゆなり○御産の時乃粥ハ

の國七いこれ里の未代用うとそり甲斐の音かゆ小近く七いこ七世の孫れ
取あふ一公事根源小つははうゆやまひの時ふと粥と四方にそくゆも正
月十五日の粥より夏にそらそらねがゆふと之たり○日本紀に擣とゆとよめり
かいの猪せふ也

加ゆー 痒とよめり換ゆもふの我ふふー弄痛也とそり

かゆは之 粥杖也かゆの本とそゆ卒の神祝と称とふと同一正月十五日粥と
焼たふ本代削とそ杖とそ子りぬ女房の後と打八男子と産とそりそのゆは
狭衣控卓紙とそ小之とそむかハ諸國少くと新婦と述一正月小ハめたきと
林今いせの排とそり又全浙兵制日本風土記に元宵名曰點之壽五例不興燈但
街道鄉村兒童年及五十八九歳已上者各取柳杖去皮雕成木刀以皮復外纏干刀上用
火燒黑去皮以分黑白之花名荷花蘭密再取荆棘之條挿供香火神前次集各童手
執木刀隊開干途九有誓久無子之婦將木刀遍身打之口念荷花蘭密必使此婦當年
有男子生男無驗襲為常例若人之婦喜悅如閨其聲讓待立千門衆童則善舞之若避
之不致牽衆擊門而入貢婦揆擠乱打縱致傷命亦不為法と之たり西陽雜俎小北朝婚

礼小婿并閨日婦家親賓婦女畢集各以杖打耳為戲樂至有委頓者とそり
△かふ 萬葉集小之ゆ通とよめり靈異記小融とよめり日本紀小往來とよめり○給
はそふとかふとつゆの破る集よ之たり今かひとそり

かよりふ 萬葉集催鳥樂とふゆの客の衆也かハ後語也
かよりかくより 萬葉集小彼縁此依とよりかふかく小かとふう如し

△から 何よりとふ辞とからとそりハ徒字とよめり神代紀小自字とよめり字書少と自ハ
由也所徒來也と注せり○何故とそり意小用なふ何からの何と侍り故とかれとよめり
轉語也字書小故ハ事因也とそゆよく古今集とのゆえとよめり同意也又糸小北
のう物からとよめり日本紀小因己物と云はれハ上と同義とよめり○萬葉集小神柄と
一本神在隨とより國柄とそゆ字書小隨ハ徒也とより真字伴勢物語とよめり
と物作とよりかかれ意也○鞘とからとよめり日本紀小之たりと柄とよめり
れんふ也とそり○日本紀小間字とよめりよりとそり小かより○空虚とよめり
らとそり間字の意にかより萬葉集小虚とよめり○本實小からとそりハ殼と
より空虚の意也介虫の皮甲とそり同一○人小からの人さ小さかとそりハ腔子

の我殼と同一之和抄語小

たまひはさかればとありけりあはのとのみからあをけりる○ささか
らとふ八神去なる人のからだ也蟬退とらつせみのからとふ如し○柄とあむ八海名
鉾小之申柯と同一間の意をさへし新撰字鏡小楸とあり○莖とあむ八神代紀
小之なる花葉の柄とあむし倭名抄小幹とあむと同一矢よふ八筥也○日本紀
に糠とあり○韓國とからとふ八加羅國也漢唐とらひからとふこと八後世
のことにし日本紀ハ漢とらや唐とらりごとこのよみかからとありる例を
萬葉集小八唐と韓國とありる所なり又漢人とからひとありされ八示良
の朝よりハ小フヒ一も今朝鮮小加羅嶋とらり○韓泊八筑前志摩郡小つら幸
比崎八石見迹摩郡小つら萬葉集小みゆからの浦と同一
から 人から身から世から日から事がら言から家から友から女から所から
宿からかとのりかからり移りく其休とふ幹字間字の意なりかことつら如
しとらかるとつらと同意をさへし

からを 係氏小さかれば常かむととも之ゆえけりる比常けりる比の我けあむ

か也不善とありは不悪と同一かればとふハくあむか也

からだ 軀殼の信語也殼立の我をさへし家と建ふよからささむとそり

からし 辛とふ味のから也らと及ふ也かむ八音のからし同一新撰字鏡小醋と

り又醜又醋とありり○芥子ハ辛さとの也倭名抄小辛菜とありるあらから

ハ白芥也江戸からしとつら○唐からハ番椒也たからハ狗芥菜也田から

ハ石龍肉也又焯菜とふ

からこ 右平記小年十五六計ふ小兒の髪唐輪小けけたふとら之なり日本紀小角

子とらげあはからしこと訓せり今ふ韓子縮也元服以前童形の髪の体也髪のと

らとらふ未成二分一額の上々と小圓く輪不結成ふ

からむ 搦字又織字とありからむととふふ及む也駮矯ホリクサの我をさへしとらら

也日本紀ハ禁字又後為官婢の及ととらふ又禁錮とからめとらふとあり○圍

碁にハ勒字也

からを 慈鳥とふ里からを是也黒一と音通をさへし萬葉集抄小之なり詩

小莫黒匪鳥とそふ是也一説ハ鳴色と稱とらとらり所にハからとむらから

うかれがをことちがらひやめかひふととよなり○喜保戊申の八月小西
 京小鳥うらぐ人語を草履を賣の色也加賀人の之を我郷國ゆとまきこる
 と○うらぶとハ鴉也白鴉たまく西國小うら暹羅國の鴉ハ皆白色也とそりまき
 唐がらをうら喜鶴也とそり○うらけかひハ曙鳥也梁詩ハ之ゆとありかきそ
 ハ栖鳥也隋詩ハ之ゆはきよかきそハ夜月鳥也唐詩ハ之ハ朝かきそハ萬
 葉集ハ之ゆ今とそり○俗ハ七月の月かれかきそとハ春雛と生くとハ雛
 長くと後ハ及哺くと七月ハ必也他所ハ別まきとハ也とハ是若鳥也○禽
 鳥の内首尾毛色雌雄のよなめさく誰う鳥の雌雄と知らんかるとハ
 了○尾張の熱田安藝の嚴嶋伯香のハハ小靈鴉うらとハ神供を取まゆら
 唐山の洞庭湖少とらう杜詩ハ迎接神鴉舞とハもろ入蜀記少とハ也○鳥
 ハ諸鳥とさふハ鷹之と多くうらありくとハざれとハ元光鳥小達くとハ甚
 居をくみくとハあり尾と衆ふとそり○俗小鳥の啼とりとハ兆とさきと
 けり黄山とらう詩ハ慈母每占鳥鶴喜とハ群談採餘の詩ハ鶴噪未為吉
 鴉鳴豈是凶人間凶與吉不在鳥音中と之ハなり○鳥の鴉の真似とハ諺ハ

風雅集小

大井川のせせり小来のふ山かひりのあ糸をくとハ奥ハとらう○山中少く後
 とと漁人の鴉と放と魚汝捕と視と鴉と捕ハ藤蘿とりくと縛くと水と投
 とる者教以後小倦くと棄去とそり○鳥山ハ下野小うら城下也かきそ崎ハ伊勢
 一志郡小うら神社存と

かきとさ 神樂寺小之たり休源披小枯萩也清暑堂御神樂の試樂執柄
 かく竹の多時ハ長枯ハ萩の枝と持ゆらうとそり保氏小とそりかく
 なるとさ浅たかかかざるととハたり辨内侍日記小新ハ納言韓神と
 小江などいらたひととハ多ひと云

きかきとさ 草の名小ハ半邊蓮也駿州少くかきとさハ不銚猫兒小似とさの偏
 からんさ 草の名小ハ半邊蓮也駿州少くかきとさハ不銚猫兒小似とさの偏
 かるとさハ也賀州少く根せるととハ不草草地小籠くと生ハ芽の氣味らと
 りくと也○倭名鉞小菊とあり乾草也と住せり今不まき也○織との時繪
 かとの蔓草とそり織草の義也一蔓草から糸とと模様とさうらふと

袍の友小と丁子がらうさくはらうさく輪ぶしからうさくどとそり

からうさ 傘とあり韓笠の我なる一しきとそり天正の比堺の高人呂宋に

そり文祿三年小ゆり一時大閣小缺せし是始也とそりこれと豊大閣の時信

長公よりわらうさと許されく播州小葦向せしとられは是より前既小有るし但

し許しられ、きさると亦今と異なり○かきかきみハ桐油織紙也

からしか 大諸禮小板少く造る死のり也又むをび花の中少し日本の死少く

かきとふとそり

からやま 日本紀小麦枯とあり又枯山は作る又枯一字とあり草木黄落は

からかみ 韓神ハ宮内省小在ハ神也神樂哥少とあり○韓紙の我とあり千載

集小わらうみのかきと物名小之たり信小衾障子とそり西小粉箋とそり印

紙也とそり○紙襖の色小わらうみとそり摺つけ文とそり玉海小青唐紙地とそり

はり庭訓小唐紙師わらう紙漉とそり○源氏わかりのかみあり

からきぬ 背子とそり宋の代小之たり唐衣の我成一し倭名彼し婦人之表衣以錦

為之形如半臂無腰襷之袷衣也とそりたりうハ比のう小かきぬる尻みしかき衣也とい

たりつ不抽伎小女髪つけく唐衣きくハ御前に出るとそり又からきぬき

ふ時小うらまはきささる例也とそり台記別記少と詣神社及奉幣之時著唐衣

不著小褂とそり庭訓小狂文唐衣とそり

わらふ祿 空船とそり今もぶ祿とそり○唐船とふりたり一船とふと因一

源平盛衰記小之將ハ唐船小のりくとそり唐船造るとそり今も長崎より

とそり源實朝公の時陳和卿とつひくありく由比濱少く渡唐の之船と造

らるる一かと和卿かと佛工ありとそり其船はさるより東鑑小之たり

からか絲 青銅也とそり古記小金銅とそり金と銅と浅雜たふ也今製とそり銅

一斤に銀五分の一とそり力とそり邦少く製と得とそりかき各はかや天工開

物小ハ礬硝等藥制煉為青銅とそり

かららみ 倭名鉞小緋とあり字書小織絲為帯とそり糸式部日記よから

のらみとそり韓組の我衣一

かららり 機関とそり又緑とありわらふと用中とそり虚峯の我衣一寂蓮家集小

下帯の結小氷小ハ紙かけとそりかかららら張の月は下帯ハふけむらびと

よむ一氷の叙と璧之りごと水かろくハ水傀儡糸かろくハ牽絲傀儡
也こそりれ聚雜要も呂久呂加良久利天廻之とるるり

かろくハ 詩とふ佐日記小之たり萬葉集續日本後紀歌と詩とるり
かろくハ 倭名鈔小權衡とるり韓等絆の叙也姓氏録高長首の下に

吳權いかりのゆりたり
かろくハ 韓衣也萬葉集小之ゆ我邦より用をとめハ日本決叙小
之たり

かろくハ 唐鑣カキの叙也○甲州山中鷹のよる昔宇治の宮に唐鑣と七月
七日の搜物の時鷹れ捉く山中の巢小置たり其るハ甲斐の國より獻をる所の也

也是より甲州鷹の別稱とるり
かろくハ 物語小多し詩也辛苦の意也文集小悲端共寒氣併ハ鼻中辛
ことたり漸のさもあ

かろくハ 後嵯峨院年中行夏按七夕篇小鳥拍納筆七本ことゆ硯と
るるり

かろくハ 紅ハ吳監ふれと紅花の我邦の物とるり後小鞆より身れ
ふと称ふしと不詳也ことりこれと業平朝臣より山前の所より織敷式
小鞆紅花綾一疋紅花六十疋ことたり

かろくハ 倭名鈔小轉筋を訓せり鳥蹇ウヅメの叙も一鳥のりり鳥小譬と
也一石らむらがりことり

かろくハ 近來渡ウヅメふ緋鳥ヒトリの叙也吐綾雜也とるり笛を吹ハ應とるり色を出入
尾孔雀の如く用冠の色よりく変せり綾ハ領下にりり伸縮自由小を
かろくハ 鳥羽小文字をさく高麗よりりり敏達紀小之たり

新拾遺集小西行法師
鳥羽小かく玉つこのちりり雁鳴とるり伊勢國司多氣窓堂と
るるあ小むかハ西行法師かろく小ありり扇とひろくかろくハ多くある小

かろくハ 羽の文字よりりりハかろくハ時虚空小声とるり
かろくハ 西行の紀行と不抱小ことりりかろくハ

の神社ハ志郡の海濱小りり式小不宿葉神社也とるり其たりり宮と緋

妻川集 卷之六下

三

三

三

とる成りと指葉社とそり式小二座と之たれ八其一座少や近古社邊もく鳥
と画きたる扇と賣とのりく其画精絶今多く稀あり是古語拾遺よふ
以鳥扇扇之とちふ小よれりとそり

かろとのつふい 古今集新千載集おとの何とふ之たり新千載集小にく
行とと之たり唐貨公真臘記小之中文徳實録小永和五年藤原岳守出為大宰
少或因檢校之唐人貨物適得元白詩草美上帝甚耽悦と之たり○まことけふ
つとひ小か物うらまかせくさぬとの也と之ゆはかかちたりとそり

△かり 鷹ハ秋也とかりくとほるとよふハ鳴声也一萬葉集也と幾世代へく
うたのがる成よふとよふり伊勢物語ハよふかとほるとそり一説小秋也と假
よとくよあり秋事うく春かり假の住居をふまかれハ名くとそり蝦夷嶋
の深山に沼ハ鶴鷹鴨とと小春夏の同群居を又五十里にわたり常磐嶋よ
り渡るとと旅鷹かとそる意也今俗言とよふり○源氏小かりのつと終く
声かちの音にまゆとあり所謂鷹櫓也奇にゆくつとよとよふハ鷹行也
詩小鷹陣ととそり○唐鷹とよふハ鷲也野鷹とよふハ鶴也海鷹ハ頸子環

の如さ白毛つらひいと叫とのハ鴻也常にばらとよふとの鷹也俗小真鷹と呼
入腹白つら○琉球ハ鴻鷹来らばとつらり○萬葉集小

はとめとそ時ふとぬとかりか糸ハ故御存りい雲かろとそく禮月令小仲秋月
鴻鷹来弦鳥歸とそたり○まハの鷹ハ歸鷹とそ也嶋雄ありい鳥集せり一たり
偶とそハ再ハ相配せり○水宿小更毎に居成易とそハ打更とそとそ○白鷹や
朱鷹たり○鴨とかりとそとそ蜻蛉日記清虫納言源氏物語かとそかりのこととそ

是也○文選小鴻とそかりとあり釋日本紀小鶴と訓せり○うかりのかりハ音
のちがるとそ甲也○歎小痛とそハ鹿と主とそくつとや魚鳥より草木よつとそ
まくと小ハ准たそ何とそ一凡其名目宿狩夕持朝狩鳥狩初鳥狩小鷹狩日次狩
贊狩鳥熊狩川狩葉狩櫻狩紅葉狩茸狩紫狩とそり○田産と教とそ小幾千

かり幾萬かりとそハ前ノ衣也田四百坪と一段とそとそ百かりとそハ男ハ五百
かりとそく小作とそ五段也とそり○操とかりとよむ倭名鏡よとそたり妻語也とそり
○許とよむハ萬葉集に妹がり妻がり吾かり源氏小丈夫かりかとよふりかつりの義
とそりとそに同一正字通小許ハ所也とそたりとそく萬葉集に妹所とそ也○紳

代紀小権とよむと假の我也鼠璞に撰言唐始用之韓愈權知國子博士云歲為真と
之なる日本此權官といひ意ふる一今又中納言皆權を稱する政務にあはかり
ざる故也とす權中納言ハ中納言唱ふと故實ハ正負の外権官らふとのハ
正權と論せし位は小依とす○北山抄小擬人小領の擬とかりとす權と意同
○儒小権道とすと意同ー劉子新論小溺子則父と梓祝とふ則君の衣は不
ハ勢ひ己み成得ぬ以く權と設ふ所也とす之なり

かりや 萬葉集小借廬とかけり約と死かりり小ふ死くと之申かりやのワヤとす
重細也とすり新穂の廬ハらうー兼好集小采のかりやと之なり新古今集にかり
つんととすかり

かりと 萬葉集小之布糧と雲異記小う女新六帖とすかりのト名一
かりバ 古事記小獵遊と之ゆ萬葉集小と之なり同集に獵路とすあると同ー
かりガ体 鴈ガ音也さふと直小鴈のゆ小かーとす後世一種の小鴈の名とすハ
俗説也一説は体ハと通をむれ又鴈のむれ也萬葉集にかりガ体ハとすハ
新古今集に伊勢の舟と名一○かりガ体ハ鬼纏麻也とす○貝の名

小とす

かりのこ 西宮記小鴨子とす續千載集に

かりいと 倭名抄小獵師とす又かりいととす音とりくす○世小漁とす
獵師とす西行の舟にさう舟とすあれはさう言葉とすなり獵師船
かこふハ遊山船の名らふ如ー万葉とす川とすりもの

かりらと 狩襪とす表ハ布裏ハ絹也東帶色目に隨身等着之今牛飼所用
亦此也とす之なり

かりきぬ 倭名抄小布衣とす此間云狩衣とすりりと狩場小とらるる服也
とす不有紋の布衣也よく院御所布衣始とす狩衣と着御の時より大臣以下
これと着ー院参したまふとす参内よととす冠服也一説は假衣の義私服の名
也よく布衣とす朝服にらさふの謂也狩場小布衣と着るると古来の例
かまと狩の時衣とすとすハらとす○今淨衣といふ年中御子の布衣
かりとめ 假初とす造次又苟且の意也よく文選に苟字とす○かくて

の山田かりをみ小松ふ玉彦成かりをよとつけハ川字より本々假字の義に相
須なりとそ

かりみや 日本紀小行宮をなかり假の宮居也かり殿かり御殿と同意也又權宮
ととそなる或ハ頓宮とあり○御狩の行宮は百草とて昔より萬葉集よりハ也
かりがハ 貞觀式小次以假拍傍膳と之事類抄小かりかり御膳のかりに
ふやこの御大物と御膳より前小載く退くとの也まかりとそ是也つり作
小字よりとり盆の類ありとそり

かりのほうい 蘇武の故事也かりの玉はさと同じ蘇武詩話を宋成淳癸酉元國使
郝經被留真州南北隔絶十五年有以生鴈饋者經作詩以常書繫鴈足通鄉と之たり
又鴈の飛はるふふと文字に之たて鴈とそり禪林寺殿七百首に

かけくことくとハ閑しう玉つさをとつる縁たふ女のかりう縁詩と水底模書雁
度時かそり文安百首に

古のその玉つさかけをくくつとよくか鴈の使う戸子に鴈銜蘆而捍綱と
たり陸奥國外濱小秋鴈の銜をすうはる本成落置く春にかり其本成銜

みく帰るとそりる人其強きる本成集うく風呂と殘さ是を鴈ぶるとそとそ
○草庵集に

かやりのの玉章とた小待とそハ雲のかりれはハハ事ふまそ是を蘇武
故事にうろく文集の三年不得書とふ句とよめ也○狩使ハ鷹狩の使とそ巡狩
の事也とそ伊勢物語小之是也とそ二代實録おとそたり神祇百首小

費かけかりれ使乃道たそ湯田野小鴨の子をやとそ伊勢考詣記小狩の使
のハ貞觀十二年五月朔日業平下向の後狩の使ハ絶なりとそハ鴨の子成置調く槐
本成らにかり紅の糸と弦かけく其弦を切調く折小りて神前よとそ奉る也
らと作り折と作り習つりとそ湯田野ハ神宮近き所小り建武年中行事ハ五
節に浴えたる小交野の雜とけされに使の有を狩使とそ也とそたり○
令式部省に假使とつふり義解小如巡察覆囚使之類是也とそたり

かりのちぎり 南朝小辨の内侍とそ一ハ世小なハハ高師直ハハ
かけく奪ひ取たり一時捕正行ゆとそ令く出令く取少一吉野の宮にまかり奉せ
一にたハハの賞に正行小内侍と揚ひたり一正行がそ辞一奉る

とくと世小ふらふへくとらぬ身のかりれ整りとつくとむをんとよめる八新田
義貞の八事相及せり因に開朝の忠臣かから志探の高き同日の談小つらひ又軍にぞ
なり時夫子れく吉野の塔の扉小あり置たる奇

如らうと加修くたり八持るふさかそふつふ名をととむふこ吉野山の如意輪
寺の宝藏小残まるととよく父のふ紙述く忠念と全くせし仰く一貴ふ一
かりぎぬふや一 将衣直衣也常に小直衣とふと束帯色目小ふ之たり

△かゝる 假借とふ八彼と我通り假と仮とある草書より誤るなる也○刈ハきると言目通
る古今集に何とやうとくくのかりんとよめる八離の字義と含めり又刈小假と兼なる
とらう○歎と加ふ八驅とよめり獵をふるとかゝるとふ也古今集にかりにたよや八君

らぶぎんとよめる八狩小假の義と相須たり○姓氏録小鞍加里郡仍賜姓輕部君
と之伊国東に一種の鳥つらうかゝると名く鴨とかりとふ是故一とそり萬葉集
少とよめり仙覺八黒鴨也とそりこれと雁のふさやとらうくも色黒鴨小似たるを今
りかゝるとふ是故一海濱行鹵小居るとの也其鴨ととふ○蝦夷に料理とると
ふと加ふとそり

かゝるかや 新葺の我萬葉集小と刈草と之たり杜小かりたりなふとふかゝるや乃
園とそり也筑前の園にらうくと天智天皇の置給ふ所是園の始也とそりこれと
日本紀小はけゆふ之を○後世一種のかゝるやとふ草りり雀姿也とそり又本集小
から人のゆきこれ園のかゝるかや八折ふりくさ道とあるらん○高野の萱堂と刈萱
道心のゆにひ傳ふる八俗説也法燈國師の身子覺心け所に一庵と修ひく住り
常佛院と号り

かゝるがゆゑ 故字とよめりまかゝるゆゑの謂也所以然の我肆とよむ八詩の毛傳に
故今也と注せり

かゝるもかく 卧猪小そり猪八たのる卧所にかゝると横考くまるとそりかやとく縁ぬ
とのかれ八舟に多く其意とよめりかゝると八枯物の義也一刈藻の義也く通いかゝり
△かれ 彼八此小對を日本紀小他とよめり詩經小伊とよめり又まとよめり人或八國を
指せり他人と渠とつひ我と儂とつひ彼と那とつひ此と這とふ八俱小俗語也他
と俗語晋書に之伊他家と同一伊と晋書に伊等ととそり伊渠八かと詭小

妻川 千本 卷之二十一 下

○七四

国立公文書館
National Archives of Japan

作列子に之なり○日本紀小故とありて我が通ふ故一又我が通ふゆゑの二重
及也ふら及らゆゑ及らえむ也

かれこま 彼此也庭訓往來小云云裕云裕點日何比とつひ園之曆宣命小怡宅裕宅恐
懼と之え々集少と云裕云裕其理不的當と之たり按をるに白居易櫻桃詩
小洽怡舉頭千萬樹婆娑拂面兩三枝と之たり此小よれか故一

△かろー 輕と日本紀小枯と輕と通せしゆとたり枯ふれ輕一我もかろ

△かこら 日本紀小号其脱甲處曰伽和羅と之なれ六古八甲とたつひ一也古
記六以鈎探其沈處者繫其衣中甲而訶和羅鳴と之なり今も俗小龜の甲をかめ
の如らとつひ筑後國高良玉密命の神社の高良とたつひと唱ふ習とたり武内宿禰と多と
之三韓退治の時甲にあり名や玉密八乾珠滿珠の故事によるとつひ或ハ物部氏の祖神と
之るは也伊勢國菟藝郡也伽和羅の神社なり

かこく 新撰字鏡に燥とよみ易小燭とよみ常に乾とあり日本紀竟冥和歌集也とかく
あり香沸のそ我もかこくと之なり後撰集も思ひあへんかこくと之なり

△かお △かえ △かお 倭訓栞前編卷之六終

下

